

日高建設協会との意見交換会の概要

1 日時 平成13年2月19日(月) 13:30～16:00

2 場所 日高建設協会会議室

3 出席者

日高建設協会関係者 15名

北海道総務部入札指導監察監室 2名

4 意見の内容(要旨)

全体について

- ・ 日高支庁管内は発注量が少なく、農業土木は前年の約半分程度である。

ランダムカット式指名選考

- ・ ランダムカットは、くじ引きであるので、運の悪い人は外れる。
- ・ 経営や技術力の向上に努力しても、ランダムカットでくじから外れたら努力するチャンスがない。努力が報われない制度である。
- ・ 日高支庁管内は、工事規模別に15件程度の発注しかないため、機会均等とならないと思う。
- ・ 恣意性の排除については分かるが、役所が善人で業者は悪人なのか。
- ・ 誰がくじを引いているのか分からないが、自分でくじを引いたのなら分かるが。
- ・ ランダムカットが始まってから指名回数も少なくなった。

受注意欲関係

- ・ 工種によって得意、不得意はあるが、地域限定型や公募型では、過去5年とか10年の経験を重視しているが、ほとんどの業者はオールマイティであるにもかかわらず、たて割り(一般土木、農業土木、森林土木等)の実績を求めている。
- ・ 暗渠排水や頭首工の工事を地域限定型や公募型で行ったが、支庁管内で過去に同種同規模の工事がほとんどないため、過去の施工実績を求めても対象業者がほとんどいない。

これでは、受注意欲があっても申請のしようがない。

- ・ 地域限定型や公募型では、個々の技術職員までも経験がないとだめと言われる。会社の実績があればいいのではないか。
- ・ 指名をされた場合、入札に参加することが業界の常識で、辞退するということは受注意欲が無いと判断されると考えており、辞退しにくい。
- ・ 受注意欲を発注者に伝える手段として、今まで各課に営業活動をしていたのに、今では挨拶もできない。
- ・ 受注意欲ということで、工事情報を公表し、個々の工事の希望を募ることも大

切である。

- ・ インターネットを活用し工事情報の内容を詳しく公表し、図面や書式もインターネットでダウンロードできるようにお願いしたい。

工事成績について

- ・ 成績評定については、主観に左右されると思う。
- ・ 監督員、検査員によって経験や見方が違うため、評価に統一性がない。
- ・ 施工が困難な工事は、現場で苦労している割には工事成績が厳しい。
誰でも出来る工事ほど点数が高い。
- ・ 情報公開されると成績が低い点数だと、一般の人から何をやっていただんだと思われる。
- ・ 成績が指名に反映されてもランダムカットにより落ちてしまえば、何の意味もない。

予定価格の事前公表について

- ・ 積算額については、特殊な工事を除いて、99%程度わかる。
- ・ C等級の上、B等級以上の業者であれば積算は出来る。
- ・ 役所の予定価格は、ものさしに過ぎない、予定価格の事前公表については、そんな意味のあるものではないと考えている。
- ・ 仮設の考え方、運搬距離等、歩掛の数値のとりかたが違うこともある。
- ・ 積算は受注後も実行予算を組むので、積算はする。
- ・ 受注しようと頑張る工事、頑張らない工事、全て積算はする。

その他

- ・ 適切な競争ができる範囲は、例えばB等級クラスであれば車で1時間から1時間半ぐらいである。
- ・ 水産土木については、自航船を保有していれば全道一円で展開しているが、自航船を保有していない企業は、管内と隣接地域である。
- ・ 水産土木では、年度当初に指名希望をとっているが、希望していないところから指名を受けた例がある。
- ・ 森林土木は昔は特殊な工事と考えられていたが、今は一般土木が出来れば施工可能であり、特殊と考えるべきでない。
- ・ 支庁管内の工事であれば、特殊な工事、例えばトンネル工事等は別として、誰でも工事は出来る、農道も林道も国道も同じである。
- ・ 各部署によつて様々であるが、設計変更もスムーズでなく、工期末ギリギリで施工現場で問題が出ることもあり、対応に苦慮する。